



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 28

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 28. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1955, 28: 51-55

ISSUE DATE:

1955-01-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186851>

RIGHT:

録 事

本年棒尾の今月は水族館内部施設の改善に全力を集中した。これは今秋各地水族館を見学した収穫を生かさんがためでもあつた。改善工事の主なものは次の6項である。才一には北水槽室の裏側に壁がなく、外気が直接水槽に影響を及ぼすので、冬期は南水槽室に比して水温低く、且つ取付け踏板が低くすぎるので、水槽管理が非常に不便であつた。また午后になると西隅の水槽中に西陽がさし、観覧にもさしつかえた。そこで思い切つて北水槽室の北と西の裏側に板壁をもうけ、かつ水槽の上より1尺下の位置に板廊下を設置して、水槽を俯瞰できるようにした。才二には、照明用蛍光灯を増設して、各水槽に1個ずつ水面直上より照らすようにしたので、水槽内の魚が非常に観やすくなったことである。才三には、南水槽室と北水槽室との間にある屋外水槽は、従来病魚の收容槽又は予備槽として使用していたが、屋根がなかったために、雨水がまじり且つ緑藻が繁茂して汚なかつた。そこでこの上に廂を設けた。才四には、No. 27の両面透視水槽の水替りが悪かつたので、給水管を底に這わして口を2箇所に分けた。この排水系はまだ不良なので来年度之を改めるつもりである。才五には、No. 24の大水槽の設明板を色彩図入りのものに改めたことである。之は観覧客に非常な好評を博した。才六には地下室のポンプのシャフトその他の腐蝕がはなはだしいので、大修理を施した。

冬にはいつたので、例年通りNo. 22とNo. 28との兩水槽に、17日より電熱装置をとりつけた。これにともなつて、水槽の魚や亀の配置換えを怠らない、完全に冬えの体制をととのえることとなつた。

またお正月にそなえて、各水槽壁のペンキの塗りかえやガラス掃除など、衣換えに多忙をさわめた年の暮れでもあつた。

では各位には新玉のよい年を迎えられようお祈りすると共に、平穩無事な昭和29年を好調裡に終ることのできたことを館員一同と共に喜びものである。

業 務 概 況

◎ 12月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	1236	42774	5831	91713	7667	134487
小 人	72	3905	37	2043	109	5948
団 体	1687	60542			1687	60542
合 計	3595	107221	5868	93756	9463	200977
無 入 場 者	学会関係及び京阪神戦災孤児等				305	1279

◎ 12月の収入 (累 計)

観覧券売上金..... 181,227..... 5,598,846.

雑 収 入..... 50..... 21,377.

11月よりの繰越し..... 543,321.

計 724,598.

◎ 12月の支出

一般経費

費 目 別	金 額	累 計	備 考
人 件 費	61303	520414	
光 熱 費	15934	96112	
消耗品費	9683	45848	
備 品 費	2800	28930	
修 理 費	26421	72775	
賃 料 費	16865	153110	
厚生費	7390	21960	
借入項料費	—	—	
諸 税 公 課	200	3851	
雑 費	510	14760	
通信運搬費	2815	15009	
研 究 費	—	20000	
旅 費	220	820	
合 計	144141	993594	

水族館改善費

項 目	金 額	累 計	備 考
博物館水槽増設工	—	91500	
公園奥路整備	—	23930	
津島橋改修排水工事	—	70090	
雨戸水族館及び博物館	—	4925	
電用起重機	—	12539	
雨戸入	—	30000	
ポンプ井戸整備工事	—	70040	
東海池排水ポンプ工事	70040	70040	
中水槽蛍光灯取付	11700	11700	
合 計	81740	314724	

実験所費

費目別	金額	累計	備考
印刷費	50,000.	450,000.	印刷費追加
備品費	—	178,300.	
設備修理費	5,000.	434,600.	物置七ノ代
特別費	2,000.	11,720.	水野入退私用金
合計	57,000.	1,104,520.	

博物飯費

費目別	金額	累計	備考
人件費	3,950.	38,235.	
消耗品費	—	170.	
修理費	—	6,330.	
備品費	100.	22,765.	
旅費	—	460.	
合計	4,050.	67,960.	

積立金

費目別	金額	引出高	現在高	備考
バス・アツツ資金	9,100.	—	160,100.	
賞子	9,100.	77,706.	39,228.	年末賞子支給
学生	2,500.	3,130.	5,722.	学生年金用分組金
災害時予備金	50.	—	633,811.54	復金返済等1000入
会議費積立金	—	—	20,865.	
積立基金	30,200.	—	599,790.	
合計	49,950.	80,836.	1,459,516.54	

支出合計

	金額	(累計)
一般経費	144,141.	993,594.
水族館改善費	81,740.	314,724.
実験所費	57,000.	1,104,520.
博物飯費	4,050.	67,960.
積立金	49,950.	830,497.

計 336,881. 3,311,295.

12月末現在高 387,717.

支出累計 331,295.

◎前年度との比較

	1953	1954	増減
入場者数	7409	9463	+ 2054
売上金	142,930.	181,227	+ 38,297.
支出金	159,958.	336,881	+ 176,923.

水族館記事

- ① 17日にNo.22水槽及びNo.28水槽に電熱装置をとりつけた。21日よりNo.22水槽にアカウミガメの今年生れの赤ん坊26匹を移したところ、仕切りの板の隙間が広すぎたために、仕切りの外に流れ出て殆んど全部大きなカメに食べられてしまったことは残念である。
- ② 残りの数匹は8匹のアイマイと共にNo.28水槽に移し、その隣のNo.27に低温に弱いミノカサゴやキハツソフ、カゴカキダイ等の熱帯魚を移した。
- ③ 22日、ソホアミによってマツカサウオ20匹が入り、同時に入りしたオオキフトヤギの見事な主きた標本と共にNo.32水槽に収容した。
- ④ アイゴやベラの白斑病治療にメチレンブルー療法を試みて好都合になつたので、中旬頃より眼や鱗などに白斑の現われはじめたエビスダイに試みることにした。治癒までは大凡1週間を要するものと思われる。
- ⑤ 31日 古賀浦の近大臨海研究所よりハマチ10匹を購入、No.24の大水槽に入れた。
- ⑥ No.3, 4の水槽底砂上に紅色の小さなものが英々と散らばっているのに気がついたので、検鏡してみると水槽壁にたくさん附着するカサネカンザシゴカイの幼生と判明した。体長5mm以下で、鰓冠は黄色に紅斑が2列に並び、紅色の棒状体と具えた頗る美しいものである。
- ⑦ 今月の死亡広告一束

マダコ	3日/匹, 15日/匹, 21日/匹,
ハナシヤコ	18日/匹
ミギマキ	18日/2匹
アオリイナ	23日/匹
シマイシガニ	23日/匹

資 料

⑧ 12月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(18)	3	6	9
気 温 (°C)	12.0—11.9 14.8	9.0—12.7 10.7	9.4—12.1 10.8
水 温 (°C)	16.6—12.4 17.6	14.4—16.3 15.4	13.7—15.4 14.5
比 重	24.4—25.0 24.7	24.8—25.2 25.0	25.2—26.0 25.5

但し { 気温は南水槽室
水温
比重 } はNo.25水槽で10時に測定

昭和30年1月6日発行 (No. 28)

編集兼
発行人

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興會

和歌山縣・白浜町

瀬戸臨海実験所内

(電話・白浜温泉515)